

「市民まつり検討」部会 白井市長に提言書を提出

『市民参加型の新たなまつりを創造すること を提言します』

まちづくり市民会議「市民まつり検討」部会が、12月21日に第6回目の会合を行い、『小野田まつり』『まつり山陽』は地域に密着したものとなっており、その存廃は地域で判断すべき」とした上で、「市民参加型の新たなまつりを創造する」という提言書をまとめ、白井市長に提出しました。（全文を次ページから掲載しています。）

「今あるものをどう活用していくかを考えながら、行政中心ではなく、市民の手によって新しいまつりをつくっていったらということになりました。部会の委員が、今後立ち上がる実行委員会に参加することで、話し合い中に出てきた意見も生かしていくことができます。」と、部会を終えた矢田座長。白井市長は「みんなの力で立派に大きく育て上げたい。」と、新しいまつりの誕生に期待を込め、約3か月にわたって話し合いを続けてきた委員の労をねぎらいました。



▲白井市長に提言書を提出する矢田松夫座長（写真右）と小柳朋治副座長（同隣）

部会からの提言

- まつりの名称は「山陽小野田市民まつり（仮称）」
- 開催時期は11月ごろ
- 開催場所は前夜祭を埴生漁港周辺、本祭を市民館周辺で
- “花火に始まり花火で終わる”を基本に、各年齢層が楽しめるまつりに
- 行政主導ではなく市民参加型とし、実行委員会を組織して実施
- 行政は財政面などを含めて支援



「小野田まつり」
（商工センター・市民館周辺）



「まつり山陽」
（厚狭駅前商店街）



「お祝い夢花火」
（埴生漁港）